

県立鳥取湖陵高等学校生物工学室 I 準備室エアコン更新工事

図面リスト

図面NO.	図面名称	SCALE
M-00	タイトル、図面リスト	
M-01	機械設備工事特記仕様書(1)	
M-02	機械設備工事特記仕様書(2)	
M-03	付近見取図、配置図、工事概要、2階平面図	1/1000、1/300
M-04	冷暖房設備 配管図	1/50
M-05	動力設備 配線図	1/50



有限会社 福田設備設計

〒689-1115 鳥取市紙子谷10番地4 TEL:0857-51-8240 FAX:0857-53-4669

管理建築士
一級建築士 第376077号 福田洋之
担当者
設備設計一級建築士 第5962号 福田洋之

CHECK

DRAW

県立鳥取湖陵高等学校生物工学室 I 準備室エアコン更新工事

SCALE

No M-00

DATE

タイトル、図面リスト

一般共通事項	21 鋼管類の防食処置	地中埋設 <ul style="list-style-type: none">● ベトロラム系 ● プレブルゴム系 ● 熱収縮チューブ及びシート																																																									
	22 絶縁継手	● 標準図（施工3） <ul style="list-style-type: none">● (1)絶縁フランチ ● (2)絶縁シート ● (3)絶縁スリーブ ● (4)絶縁ユニオン																																																									
	23 防振継手	※ 合成ゴム製（球形） <ul style="list-style-type: none">● ポリテトラフルオロエチレン製 ● ペローズ形（ステンレス製）																																																									
	24 伸縮管継手	※ ペローズ形 <ul style="list-style-type: none">● スリーブ形																																																									
	25 塗装	各種機材のうち、下記の部分は塗装しない。（さび止め塗装は除く。） (ア)埋設されるもの（ただし、防食塗装部分を除く） (イ)垂鉛めっき以外のめっき仕上げ面 (ウ)垂鉛めっきされたもので、常時隠べいされる部分 (エ)垂鉛めっきされた金属電線管、鋼製架台及び支持金物類 (オ)樹脂コーティング等を施したもので、常時隠べいされる部分 (カ)カラー垂鉛鉄板面 (キ)アルミ、ステンレス、銅、溶融アルミニウム-垂鉛鉄板面、合成樹脂製等、特に塗装の必要を認められない面 (ク)特殊な意匠的表面仕上げ処理を施した面 (ケ)主・各階機械室内等及び電気室内の垂鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管 <ul style="list-style-type: none">● 上記及び標準仕様書によらず塗装を施す部分・箇所（ ）																																																									
	26 ステンレス鋼管の接合方法	呼び径60S u以下の継手は、S A S 3 2 2を満足するものとする。																																																									
	27 溶接配管の検査	● ガス配管 <ul style="list-style-type: none">● 冷温水配管 ● 冷却水配管 非破壊検査の適用（ <ul style="list-style-type: none">● 放射線透過検査 ● 浸透探傷検査又は磁粉探傷検査 ） 抜取率（ <ul style="list-style-type: none">● 標準仕様書による ● % ） ● 地中埋設機を明示する箇所に設ける。 <ul style="list-style-type: none">● () ● 埋設表示用テープを埋設する。（ <ul style="list-style-type: none">● ガス管 ● 屋外給水管 ● () ） ポンプ、屋外設置機器及びビット内使用するアンカーボルト、ナットはSUS304製とする。 屋外及びビット内の配管、ダクトに使用する支持金物等はステンレス製または溶融垂鉛めっき仕上げとする。 下記事項の総合調整を行い、測定結果を監督職員に提出する。 <ul style="list-style-type: none">● 温度 ● 湿度 ● 風量 ● 騒音 ● 水量 ● 浄化槽放流水質 ● 風速 ● じんあい ● 飲料水水质 ● 一般飲料水適否検査 ● () ● その他水質等（ <ul style="list-style-type: none">● 雑用水 ● 空調用流体 ● () ） 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編） 9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の除去工事による。																																																									
	28 埋設表示	処理を行うアスベスト含有建材の仕様等																																																									
	29 支持金物・固定金具	<table border="1"> <thead> <tr> <th>建材の内容・箇所</th> <th>仕様等</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲																																																						
	建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲																																																								
30 総合試運転調整	※ 県有施設の石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録を受けている業者を活用するものとする。 ※ 官公署その他への手続きは、同じ仕様ほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。 ● 施工調査（分析によるアスベスト含有建材の調査）を行う。 分析方法はJ I S A 1 4 8 1「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。 ● アスベスト粉じん濃度測定を行う。 （測定時期： <ul style="list-style-type: none">● 測定場所： <ul style="list-style-type: none">● 測定点： <ul style="list-style-type: none">● () ） ● 洗浄設備（洗眼、うがいの設備）及び更衣設備等を設ける。 ● 作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。 対象箇所（ <ul style="list-style-type: none">● () ） 工事の施工に伴い既成部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならぬ補修する。 既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。 探査方法 <ul style="list-style-type: none">● ※電磁誘導式 ● 放射線透過検査 実施する。 工事目的物及び工事材料等工事施工中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。 （保険の加入期限は、工事完成引渡しまで[概ね工期+21日]とする。） グリーン購入は次のものとする。 ○空調用機器（ <ul style="list-style-type: none">● エアコン ● 衛生器具（ <ul style="list-style-type: none">● () ） ● 断熱材（ <ul style="list-style-type: none">● () ● 配管材（ <ul style="list-style-type: none">● 再生硬質ポリ塩化ビニル管 ● () ） ● その他（ <ul style="list-style-type: none">● () ） ） 対象工事 対象工事 設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1k N以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。 (1) 機器の据付け及び取付け 設計用水平地震力は、機器の重量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量）[k N]に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。 設計用標準水平震度 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th> <th rowspan="2">機器種別</th> <th colspan="2">● 特定の施設</th> <th colspan="2">● 一般の施設</th> </tr> <tr> <th>● 重要機器</th> <th>● 一般機器</th> <th>● 重要機器</th> <th>● 一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">上層階 屋上、塔屋</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中間階</td> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地階・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table> 上層階の定義 2～6階建：最上階、7～9階建：上層2階、10～12階建：上層3階、13階建以上：上層4階 中間階の定義 地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの 重要機器 <ul style="list-style-type: none">● 換気機器 ● 空調機器 ● 熱源機器 ● 防災機器 ● 監視制御設備 ● 危険物貯蔵装置 ● 火を使用する設備 ● 避難経路上に設置する機器 ● 水槽類（燃料小出槽を含む） ● () ● () (2) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1／2とし、水平地震力と同時に働くものとする。 (3) 設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（一財）日本建築センター）を参考にする。	設置場所	機器種別	● 特定の施設		● 一般の施設		● 重要機器	● 一般機器	● 重要機器	● 一般機器	上層階 屋上、塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0	防振設置機器	2.0	2.0	2.0	1.5	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0	中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6	防振設置機器	1.5	1.5	1.5	1.0	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6	地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4	防振設置機器	1.0	1.0	1.0	0.6	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
設置場所	機器種別			● 特定の施設		● 一般の施設																																																					
		● 重要機器	● 一般機器	● 重要機器	● 一般機器																																																						
上層階 屋上、塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0																																																						
	防振設置機器	2.0	2.0	2.0	1.5																																																						
	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0																																																						
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6																																																						
	防振設置機器	1.5	1.5	1.5	1.0																																																						
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6																																																						
地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4																																																						
	防振設置機器	1.0	1.0	1.0	0.6																																																						
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6																																																						
31 アスベスト含有建材の処理																																																											

1 空気調和設備	① 設計用温湿度条件	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="2">外気条件(目標値)</th> <th colspan="4">室内(調整目標値)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一般</th> <th colspan="2">湿度</th> <th colspan="2">湿度</th> </tr> <tr> <th>温度</th> <th>湿度</th> <th>温度</th> <th>湿度</th> <th>温度</th> <th>湿度</th> </tr> <tr> <th>(DB)</th> <th>(RH)</th> <th>(DB)</th> <th>(RH)</th> <th>(DB)</th> <th>(RH)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>36.0</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>28.0</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>-0.4</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>19.0</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table>		外気条件(目標値)		室内(調整目標値)				一般		湿度		湿度		温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	夏季	36.0	℃	%	28.0	℃	%	冬季	-0.4	℃	%	19.0	℃	%
		外気条件(目標値)		室内(調整目標値)																																					
		一般		湿度		湿度																																			
		温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度																																		
	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)																																			
	夏季	36.0	℃	%	28.0	℃	%																																		
	冬季	-0.4	℃	%	19.0	℃	%																																		
	2 冷却水管	※ SGP(白) <ul style="list-style-type: none">● SGP-V A ● SGP-P A																																							
	3 冷水・温水・冷温水管	※ SGP(白) <ul style="list-style-type: none">● SGP-H V A ● ステンレス鋼管(SUS304)																																							
	4 膨張・空気抜・補給水管	● 架橋ポリエチレン管(ファンコイル機器接続部に限る) <ul style="list-style-type: none">● ポリプテン管(ファンコイル機器接続部に限る)																																							
5 蒸気給気管	※ SGP(黒)																																								
6 蒸気還水管	※ S T P G 3 7 0 - S c h 4 0(黒) <ul style="list-style-type: none">● ステンレス鋼管(SUS304)																																								
7 油・油用通気管	一般配管 <ul style="list-style-type: none">● ※ SGP(黒) ● 地中配管 ● ※合成樹脂被覆鋼管																																								
⑧ 冷媒管	※ 断熱材被覆鋼管																																								
9 空調用給水管	● ステンレス鋼管 <ul style="list-style-type: none">● SGP-V B ● 水道用フレキチューブ																																								
⑩ 空調用排水管	※ SGP(白) <ul style="list-style-type: none">● V P ● ドレンホース																																								
11 弁	※ 5 K <ul style="list-style-type: none">● 1 0 K																																								
12 ファンコイルユニット	※ 流量調整弁 <ul style="list-style-type: none">● 定流量弁(<ul style="list-style-type: none">● ダイアフラム式流量可変式 ● カートリッジオリフィス形)を取付ける。 (ア)防煙ダンパー <ul style="list-style-type: none">● ※ 遠隔復帰式 ● 電気式 (イ)ピストンダンパー <ul style="list-style-type: none">● ※ 遠隔復帰式 ● 高圧2ダクト																																								
13 ダンパー	※ 低圧ダクト <ul style="list-style-type: none">● 高圧1ダクト ● 高圧2ダクト																																								
14 ダクト	● 長方形ダクト <ul style="list-style-type: none">● コーナボルト工法(<ul style="list-style-type: none">● 共板工法(動作用電圧(電線4コア2.25V法)0.7 A以下とする。) (長辺1500mmを超えるものはアングルフランジ工法とする。) ● アングルフランジ工法 ） ● 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板製とする。 ボックス <ul style="list-style-type: none">● ※ 垂鉛鉄板製 ● グラスウール製 シーリングディフューザーの接続は、標準図(施工49)を参考とする。 接続するダクトの施工が困難な場所はフレキシブルダクトを使用してもよい。 線状吹出口には、(長さ+100)×300×300Hの接続チャンパーを設ける。 外壁に面するガラリにチャンパー等を設ける場合には、雨水等を自然に排出できるよう勾配をつける。 吹出口接続チャンパー及び図示したダクト並びにチャンパー類に内貼する。 内貼りチャンパー類の寸法は、外法寸法とする。 吹出口接続チャンパー以外の内貼りしたチャンパーには点検口(原則400×600)を取付ける。 形式はビート管式(コック付)とする。 <ul style="list-style-type: none">● 着脱式 ● 固定式 下記の箇所、若しくは図示により取付ける。 <ul style="list-style-type: none">● 冷凍機類の冷水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング ● 冷凍機類の冷却水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング ● ボイラー又は熱交換器の温水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング ● 冷温水ヘッダーの各送り管 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング ● ユニット形空調機和の冷水水入口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング ● メカニカル形 ● 風速センサー形 機器付属以外の温度計 <ul style="list-style-type: none">● ※工業用バイメタル式 ● ガード付L形温度計 空気溜りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。 <ul style="list-style-type: none">● ※ 手動 ● 自動 自動空気抜き弁装置は標準図による。(施工38(g)) 機械室の手動式空気抜き配管の保温は分岐から2mの範囲とする。 トラップ形式はフロートボール式(床置型) <ul style="list-style-type: none">● ※ FRP製保温型 ● FRP製 ● SUS製 材質及び厚さ <ul style="list-style-type: none">● SS400(※3.2mm ● 4.5mm) ● SUS(※1.5mm ● 2.0mm) 煤煙濃度計 <ul style="list-style-type: none">● 取付ける ● 取付けない ● 取付座を付ける 煤じん量測定口(80φ×2) <ul style="list-style-type: none">● ※ 取付ける ● 取付けない 油面計はゲージ式(側圧計)とする。 据付け方法 <ul style="list-style-type: none">● 標準図(施工32)(二重殻タンク・タンク室無し) ● 標準図(施工33)(タンク室有り) タンクの保護被覆 <ul style="list-style-type: none">● ※強化プラスチック ● エポキシ樹脂 ● アスファルト 基礎杭 <ul style="list-style-type: none">● ※ 不要 ● 要(※別途工事 ● 本工事) 土留め工事 <ul style="list-style-type: none">● 要 ● 不要 タンクローリー用アース端子を設ける。 油面制御装置の機能 <ul style="list-style-type: none">● 給油ポンプの起動停止 ● 満油警報 ● 減油警報 ● 機器表特記による。 ● 空気調和機のフィルターは、ロールの場合は1本、ユニットの場合は1セットを付属品として納入する。																																								
15 吹出口・吸込口																																									
16 チャンパー等																																									
17 消音内貼り																																									
18 瞬間流量計及び流量測定口																																									
19 定風量・変風量ユニット																																									
20 温度計																																									
21 冷温水管の空気抜き																																									
22 空調機用トラップ																																									
23 鋼板製煙道																																									
24 オイルサービスタンク																																									
25 地下オイルタンク																																									
26 油面制御装置																																									
27 フィルター等付属品																																									
28 パッケージ空調機の能力表示	インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 標準仕様書によるほか、中央機械室の冷却水管、冷温水管等の吊り及び支持は防振吊り金物又は防振支持金物で行う。																																								
29 防振吊り及び支持金物	※ 垂鉛鉄板製 <ul style="list-style-type: none">● 鋼板製(厚1.6mm) 形状 <ul style="list-style-type: none">● パネル形 ● スリット形 ● ダンパー形 取付け <ul style="list-style-type: none">● 天井取付 ● 壁取付 電気式(遠隔操作) <ul style="list-style-type: none">● ※ 不要 ● 要) 建築設備定期検査業務基準書2016年版(一財)日本建築設備・昇降機センター)の検査方法に準ずる。																																								
⑨ 自動制御設備	<ul style="list-style-type: none">● 有り(構成機能は、図示による) ● 無し ● 要(<ul style="list-style-type: none">● 本工事 ● 別途工事) ● 不要 取付高さ <ul style="list-style-type: none">● ※1300mm ● mm ● 屋外、屋内露出の配線は、図面に表記のない限り金属管配線とする。 ● 天井隠べいの配線は、図面に表記のない限りケーブル配線とする。																																								

6 衛生器具設備	1 衛生器具の参考型番	型番変更等により参考型番が変更又は廃止されている場合、参考型番の同等品とする。
	2 小便器用節水装置	※ 小便器一体型 <ul style="list-style-type: none">● 小便器分離型 <ul style="list-style-type: none">● 洗浄水量4リットル/回以下 ※ 個別感知方式(<ul style="list-style-type: none">● A C電源 ● 自己発電 ● 乾電池) <ul style="list-style-type: none">● 手動式 電源供給方式 <ul style="list-style-type: none">● A C電源 ● 自己発電 ● 乾電池 操作方式 <ul style="list-style-type: none">● 電気閉閉式(<ul style="list-style-type: none">● センサー式 ● タッチスイッチ式) ● 手動式 洗浄水加温方式 <ul style="list-style-type: none">● 瞬間式 ● 貯湯式 ※ 標準図(施工64) <ul style="list-style-type: none">● 標準図(施工65)
	3 自動水栓	● 親メーター <ul style="list-style-type: none">● ※ 借用 ● 買取(<ul style="list-style-type: none">● ※ 直読 ● 遠隔表示)
	4 大便器洗浄弁	● 子メーター <ul style="list-style-type: none">● ※ 買取 ● 借用(<ul style="list-style-type: none">● ※ 直読 ● 遠隔表示) (ア)一般配管 <ul style="list-style-type: none">● SGP-V B ● SGP-P B ● S U S 3 0 4 ● S U S 3 1 6 ● H I V P ● 架橋ポリエチレン管 (イ)土間下配管 <ul style="list-style-type: none">● SGP-V D ● SGP-P D ● H I V P ● S U S 3 0 4 ● S U S 3 1 6 (ウ)地中配管 <ul style="list-style-type: none">● SGP-V D ● SGP-P D ● H I V P ● S U S 3 0 4 ● S U S 3 1 6 ● 水道配水用ポリエチレン管(75～100A) ● 水道用ポリエチレン二層管(50A以下) (エ)特記なき給水管の最小口径は20Aとする。 (オ)ビニル管の接合方法 <ul style="list-style-type: none">● ※ 接着接合 ● ゴム輪接合(直管以外の継手部には離脱防止金具取付とする。) (カ)ポリエチレン管の接合方法 50A以下 <ul style="list-style-type: none">● ※ 金属製継手 ● 融着継手 ● 75A以上 <ul style="list-style-type: none">● ※ 融着継手 ※ 口径65A以上の仕切弁及び逆止弁は、ライニング弁とする。 <ul style="list-style-type: none">● 5 K(受水槽以降の配管に使用) ● 1 0 K(公営水道に直結する配管に使用) ● 公営水道事業者指定の止水栓又は弁(給水引込部に使用) 屋外に設置する水槽のマンホール蓋は保温形(二重蓋含む)とする。
	5 温水洗浄便座	
	6 器具と排水管接続	
	7 給水設備	(ア)屋内汚水管 <ul style="list-style-type: none">● V P ● R F - V P ● 排水用塩ビライニング鋼管 ● 耐火二層管 (イ)屋内雑排水管 <ul style="list-style-type: none">● V P ● R F - V P ● SGP(白) ● 排水用塩ビライニング鋼管 ● 耐火二層管 (ウ)ポンプ排水管 <ul style="list-style-type: none">● V P(水道用) ● H I V P ● 排水用塩ビライニング鋼管(送込排水管用継手) (エ)通気管 <ul style="list-style-type: none">● V P ● R F - V P ● SGP(白) ● 排水用塩ビライニング鋼管 (オ)屋外排水管 <ul style="list-style-type: none">● V P ● R F - V P ● V U(地中) ● R E P - V U(地中) ● R S - V U ● 卵形管 ● コンクリート管 3階以上にわたる排水管立て管に満水試験継手を <ul style="list-style-type: none">● ※ 取付ける ● 取付けない ※ 施工する <ul style="list-style-type: none">● 施工しない ※ 行わなくてもよい <ul style="list-style-type: none">● 図示の系統のみ行う
	8 排水設備	1 配管材料 <ul style="list-style-type: none">● SGP-H V A ● ステンレス鋼管 ● 架橋ポリエチレン管 ● 保温付被覆鋼管 ● 鋼管 ● 湯沸器、給湯機廻りの付属配管等は製造業者標準品とする。 ● ※ 5 K ● 1 0 K
	9 給湯設備	1 配管材料 (ア)一般配管 <ul style="list-style-type: none">● SGP(白) ● S T P G (イ)土間下配管 <ul style="list-style-type: none">● SGP-V S ● S T P G - V S (ウ)地中配管 <ul style="list-style-type: none">● SGP-V S ● S T P G - V S ※ 1 0 K <ul style="list-style-type: none">● 1 6 K (ア)呼水タンク <ul style="list-style-type: none">● ※ 施工しない ● 施工する (イ)充水タンク <ul style="list-style-type: none">● ※ 施工しない ● 施工する (ウ)配管の保温は次による。(屋外露出箇所は種別e 3・(ハ)・Ⅶによる) <ul style="list-style-type: none">● 屋内消火栓用(<ul style="list-style-type: none">● ※ 施工しない ● 施工する) ● スプリングラー用(<ul style="list-style-type: none">● ※ 施工しない ● 施工する) ● 連結送水用(<ul style="list-style-type: none">● ※ 施工しない ● 施工する) ● 広範囲型2号消火栓 <ul style="list-style-type: none">● 易操作性1号消火栓 ● 屋内消火栓(<ul style="list-style-type: none">● e 1号 ● e 2号) ● 窒素 <ul style="list-style-type: none">● I G - 5 4 1 ● I G - 5 5 ● H F C - 2 2 7 e a ● H F C - 2 3 ※ 手動 <ul style="list-style-type: none">● 自動手動切替式
	10 消火設備	1 都市ガス設備 都市ガスはガス供給事業者の供給約款による。 (ア)一般配管 <ul style="list-style-type: none">● SGP(白) ● 合成樹脂被覆鋼管 (イ)土間下配管 <ul style="list-style-type: none">● ※ 合成樹脂被覆鋼管 (ウ)地中配管 <ul style="list-style-type: none">● ※ 合成樹脂被覆鋼管 ● ガス用ポリエチレン管 ● 親メーター <ul style="list-style-type: none">● ※ 借用 ● 買取(取付け <ul style="list-style-type: none">● ※ 別途 ● 本工事) ● 子メーター <ul style="list-style-type: none">● ※ 買取 ● 借用(取付け <ul style="list-style-type: none">● ※ 本工事 ● 別途) ● 縦型 ● 横型 ● 借用 ● 買取
11 ガス設備	4 屋内消火栓 5 ガス系消火剤の種類 6 ガス系消火の起動方式	
12 浄化槽設備	1 処理種別及び方式 <ul style="list-style-type: none">● 小規模合併処理(<ul style="list-style-type: none">● 分離接触ばっ気方式 ● 嫌気ろ床接触ばっ気方式 ● 脱窒ろ床接触ばっ気方式 ● その他性能評価を受けた方式(<ul style="list-style-type: none">● () ● ())) ● 合併処理(<ul style="list-style-type: none">● 接触ばっ気方式 ● 長時間ばっ気方式 ● 回転板接触方式) ● ユニット型 ● 現場施工型 ● 処理対象人員 <ul style="list-style-type: none">● 人 ● 処理水量 <ul style="list-style-type: none">● m³/d ● 流入BOD 200mg/L <ul style="list-style-type: none">● 放流水質BOD 20mg/L以下 ● T-N <ul style="list-style-type: none">● mg/L以下 ● T-P <ul style="list-style-type: none">● mg/L以下 ※ 自然流下 <ul style="list-style-type: none">● ボンプ排水 ● 砂 <ul style="list-style-type: none">● 根切土の中の良質土 ● 不要 ● 要(図示による) ※ 製造者標準仕様(ロック式) <ul style="list-style-type: none">● MHA型(ボルト式) 3ヶ月相当分を納入する。	

				管理建築士 一級建築士 第376077号	福田洋之	CHECK	DRAW	県立鳥取湖陵高等学校生物工學室I準備室エアコン更新工事	SCALE	No M-02
				担当者	福田洋之	福田	福田	機械設備工事特記仕様書(2)		DATE
				設備設計一級建築士 第5962号	福田洋之					

有限会社 福田設備設計

〒689-1115 鳥取市紙子谷10番地4 TEL:0857-51-8240 FAX:0857-53-4669

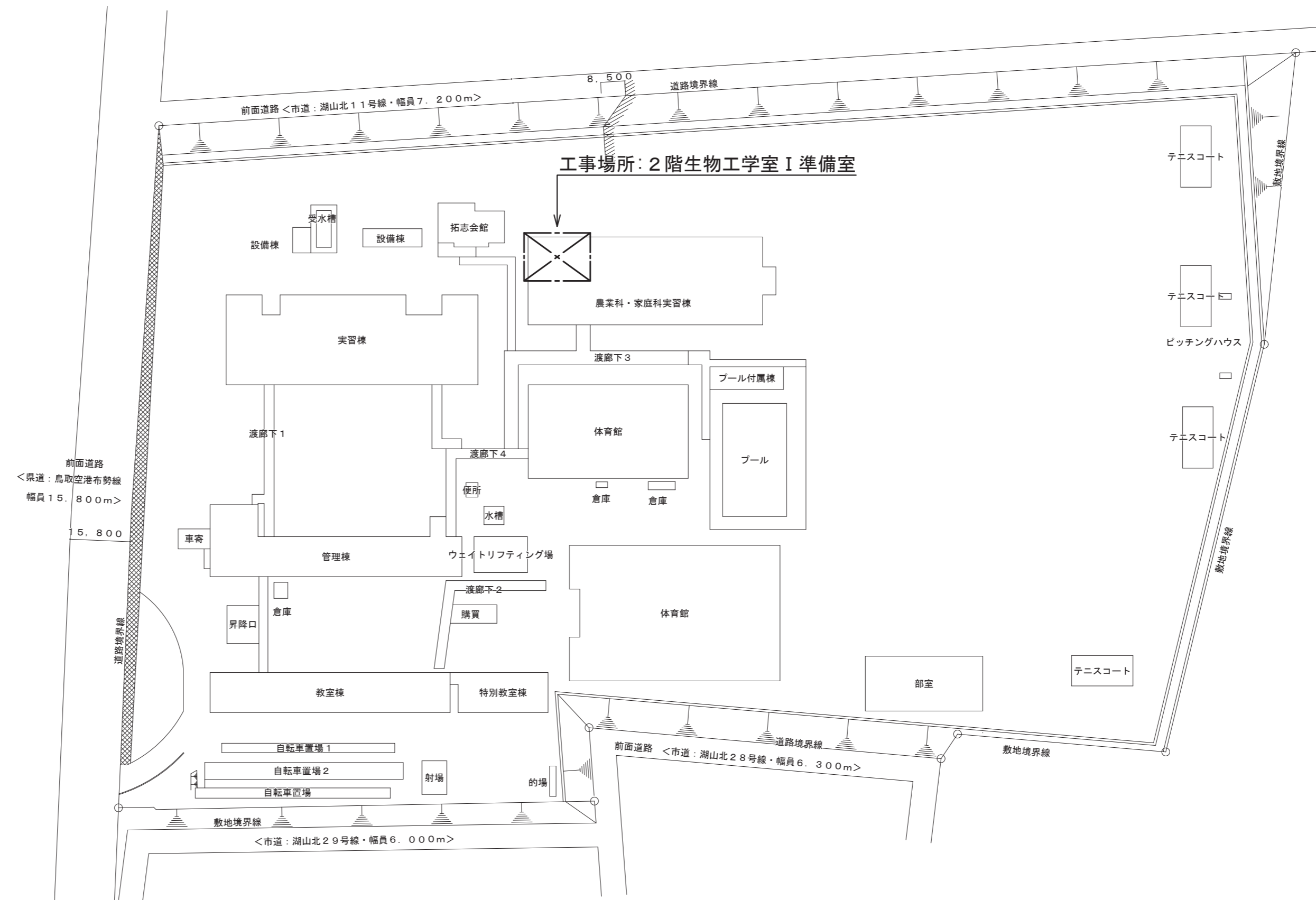




付近見取図

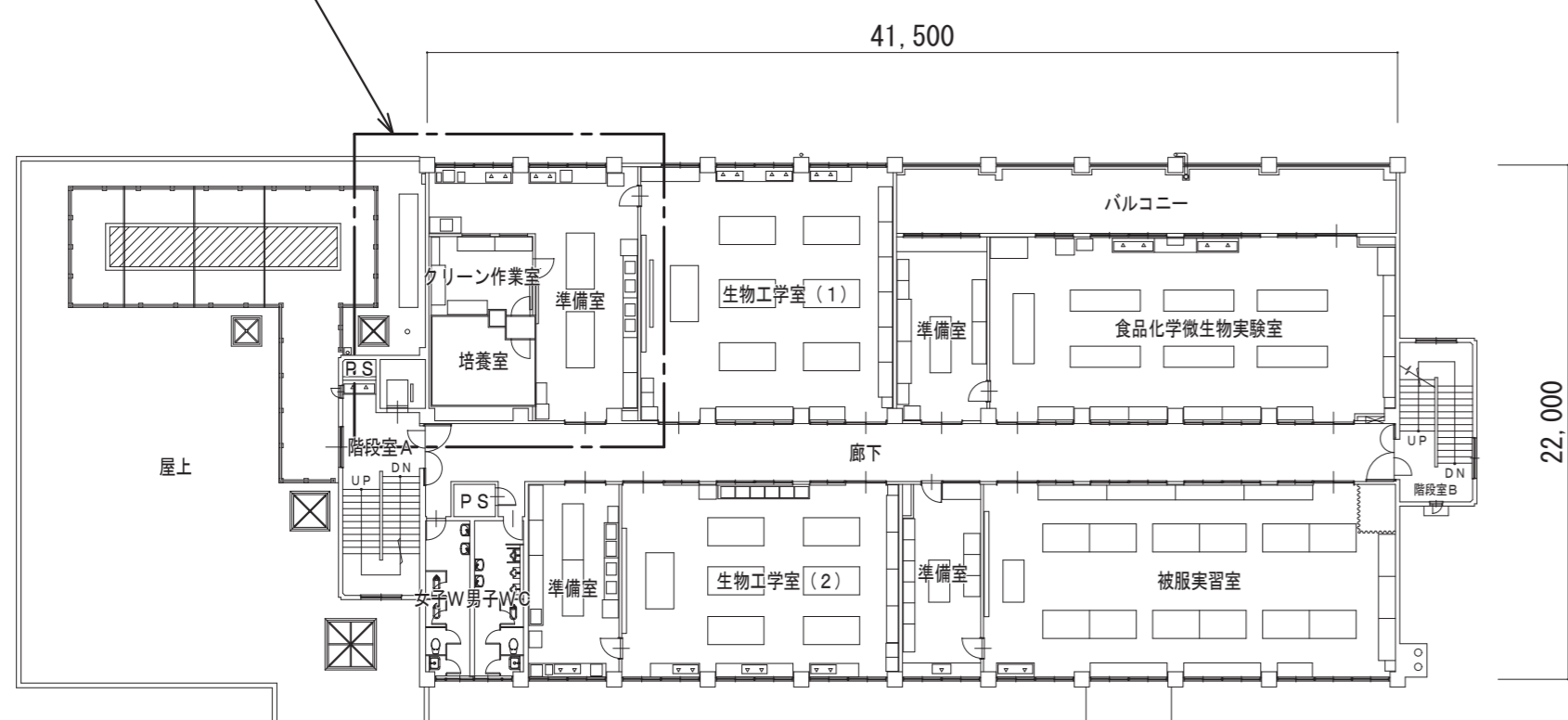
【工事概要】

- 2階生物工学室 I 準備室に設置されているパッケージエアコンを更新する。
- ・ 天カセ2方向吹出形(2台同時運転タイプ) P140形
- ・ 室内機更新の際、天井ボードを一部撤去新設する。
- ・ 室外機更新の際、既設コンクリート基礎の塗膜防水改修を行う。



配置図 S=1/1000

工事場所: 2階生物工学室 I 準備室



2階平面図 S=1/300



有限会社 福田設備設計

〒689-1115 鳥取市紙子谷10番地4 TEL:0857-51-8240 FAX:0857-53-4669

管理建築士 福田洋之
 一級建築士 第376077号
 担当者
 設備設計一級建築士 第5962号 福田洋之

CHECK DRAW
 福田 福田

県立鳥取湖陵高等学校生物工学室 I 準備室エアコン更新工事
 付近見取図、配置図、工事概要、2階平面図

SCALE
 1/1000
 1/300

No M-03
 DATE

新設機器表

記号	名称	仕様	数量
AC 2	個別パッケージエアコン ※重耐塩害仕様	天井カセット2方向吹出形 (2台同時運転タイプ) 定格冷房能力: 12.5kW 定格暖房能力: 14.0kW 電源: 3φ200V 圧縮機出力: 2.7kW ドレンアップメカ、ワイヤードリモコン、分岐管、 鋼製平架台(500H)溶融亜鉛メッキ仕上げ、リニューアルパネル(ワイドパネル) グリーン購入法適合品、高調波流出電流計算書上の換算係数: ki=1.8以下	1

- ・冷媒管サイズ(室外機~分岐管):液管φ9.52(保温厚10mm)/ガス管φ15.88(保温厚20mm)
- ・冷媒管サイズ(分岐管~室内機):液管φ9.52(保温厚10mm)/ガス管φ15.88(保温厚20mm)
- ・冷媒管及びドレン管の屋外露出(共巻箇所)は、樹脂製保温化粧ケース(参考:SD140)内配管とする。
- ・天井内ドレン管は、グラスウール厚20mmにて断熱を行うこと。
- ・冷媒管のサイズ、室内外渡り配線及びリモコン線の仕様は、メーカー仕様に合わせてのこと。
- ・機器の定格能力、定格消費電力はJIS B 8616による。 開閉器容量30A

撤去機器表

記号	名称	仕様	数量
AC 2	個別パッケージエアコン ※重耐塩害仕様	天井カセット2方向吹出形 (2台同時運転タイプ) 定格冷房能力: 12.5kW 定格暖房能力: 14.0kW 電源: 3φ200V 圧縮機出力: 3.75kW ドレンアップメカ、ワイヤードリモコン、分岐管、 鋼製平架台(500H)溶融亜鉛メッキ仕上げ 冷媒: R407C 2.85kg 室外機重量: 103kg 室外機参考品番: FDCSP140HD3	1

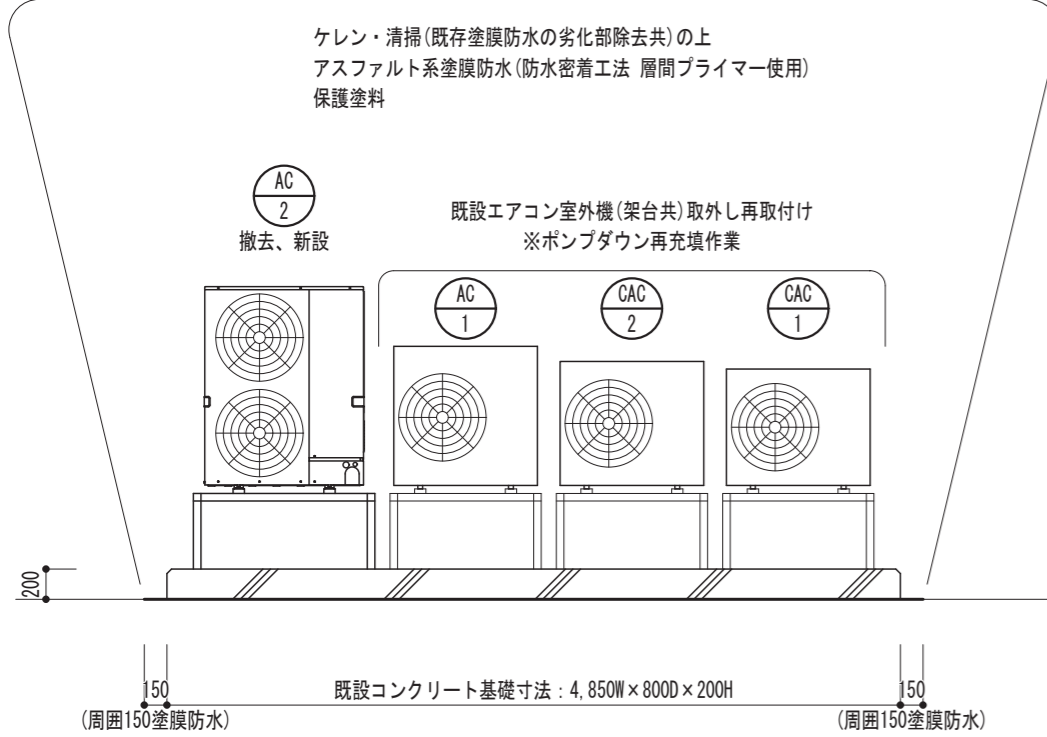
- ・冷媒管サイズ(室外機~分岐管):液管φ9.52(保温厚8mm)/ガス管φ15.88(保温厚20mm)
- ・冷媒管サイズ(分岐管~室内機):液管φ9.52(保温厚8mm)/ガス管φ15.88(保温厚20mm)
- ・冷媒管及びドレン管の屋外露出(共巻箇所)は、樹脂製化粧ケース(参考:UD120)内配管
- ・法令に従い、適切に冷媒回収・破壊処理を行うこと。
- ・開閉器容量30A

凡例

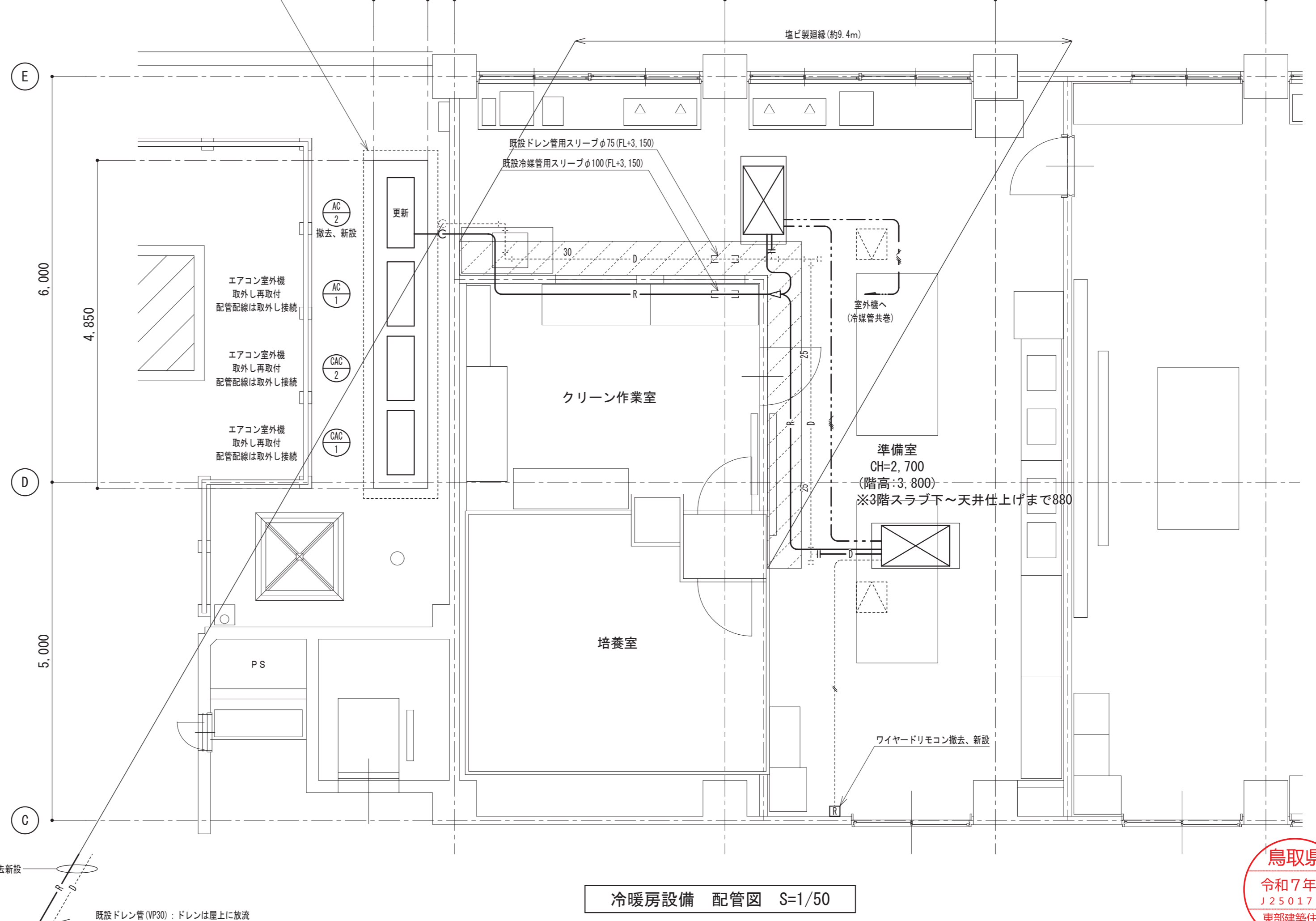
記号	仕様	改修内容
R	冷媒管	撤去、新設
D	ドレン管	撤去、新設
D	ドレン管	既設のまま
D	ドレン管	※既設
D	ドレン管	※既設管切断、接続箇所を示す
R	ワイヤードリモコン	※リモコン配線、壁内ボックスおよび電線管は、既設再利用
R	ワイヤードリモコン	撤去、新設
---	室内外機渡り配線	※VVF2.0-3C撤去、EM-EFF2.0-3C E1.6新設
---	既設リモコン配線(既設再利用)	※既設機器およびリモコン接続部分の配線取外し、再接続
---	既設リモコン配線(既設再利用)	既設再利用
□	天井点検口450×450(アルミ額縁)	※既設
□	天井上(2重貼)・・・ロックウール化粧吸音板 厚12t + 捨貼: 石膏ボード 厚9.5t ※LGS下地: 既設使用	撤去、新設



既設エアコン室外機基礎および周囲150mm



既設エアコン室外機基礎および周囲150mm 塗膜防水改修



既設機器表 取外し再取付 (ポンプダウン再充填作業共)

記号	室外機品番	仕様	数量
AC 1	FDCSP40HD2	定格冷房能力: 3.6kW 定格暖房能力: 4.0kW 鋼製架台(平地置用)500H 取外し再取付け共	1
CAC 1	RAS-GP80RSH2	定格冷房能力: 7.1kW 定格暖房能力: 8.0kW 鋼製架台(平地置用)500H 取外し再取付け共	1
CAC 2	RAS-GP56RSH2	定格冷房能力: 5.0kW 定格暖房能力: 5.6kW 鋼製架台(平地置用)500H 取外し再取付け共	1

冷媒管撤去新設、ドレン管(VP30)既設、保温化粧ケース撤去新設

既設ドレン管(VP30): ドレンは屋上に放流

冷暖房設備 配管図 S=1/50



有限会社 福田設備設計

〒689-1115 鳥取市紙子谷1-0番地4 TEL:0857-51-8240 FAX:0857-53-4669

管理建築士 一級建築士 第376077号 福田洋之
担当者 設備設計一級建築士 第5962号 福田洋之

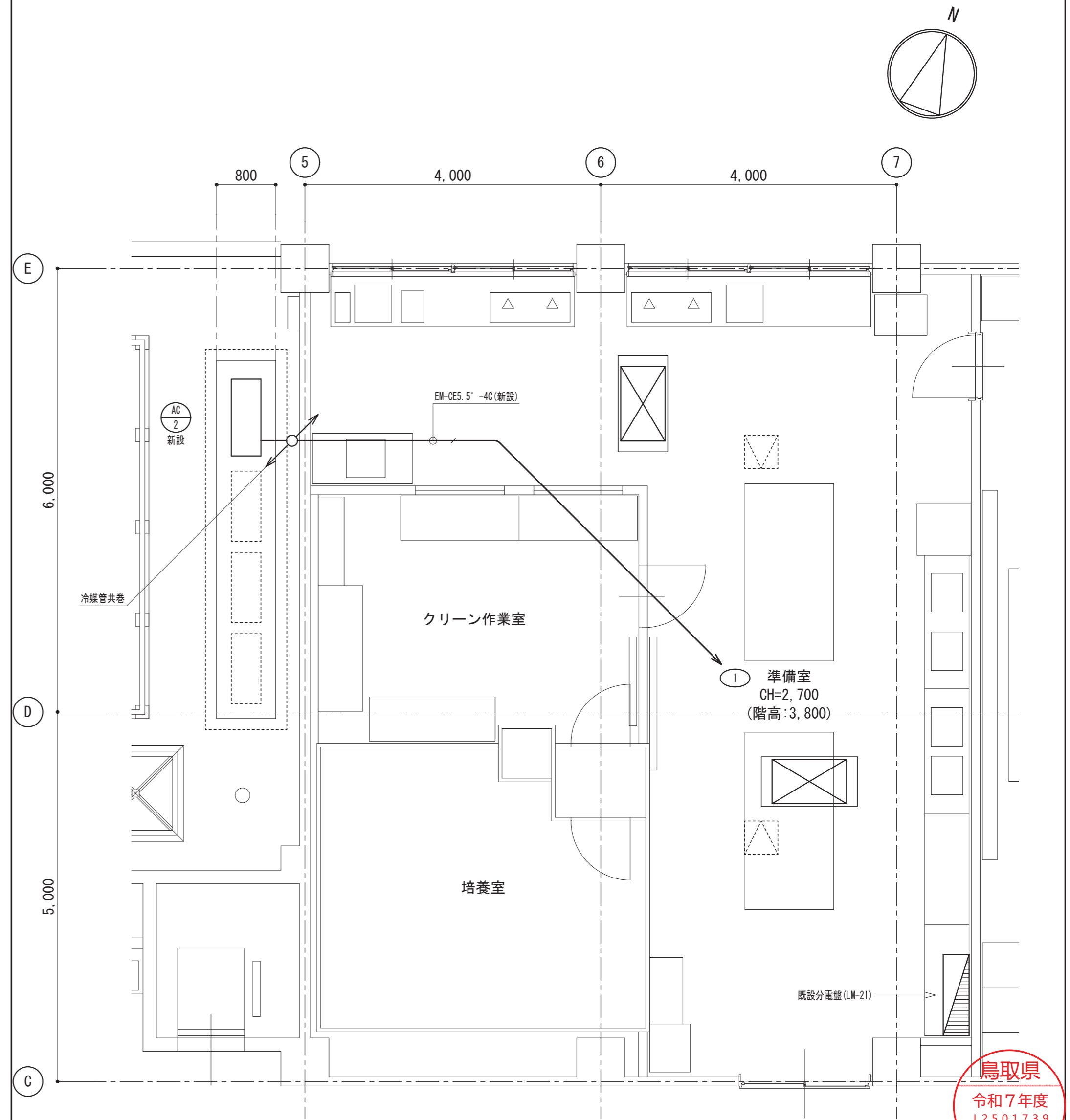
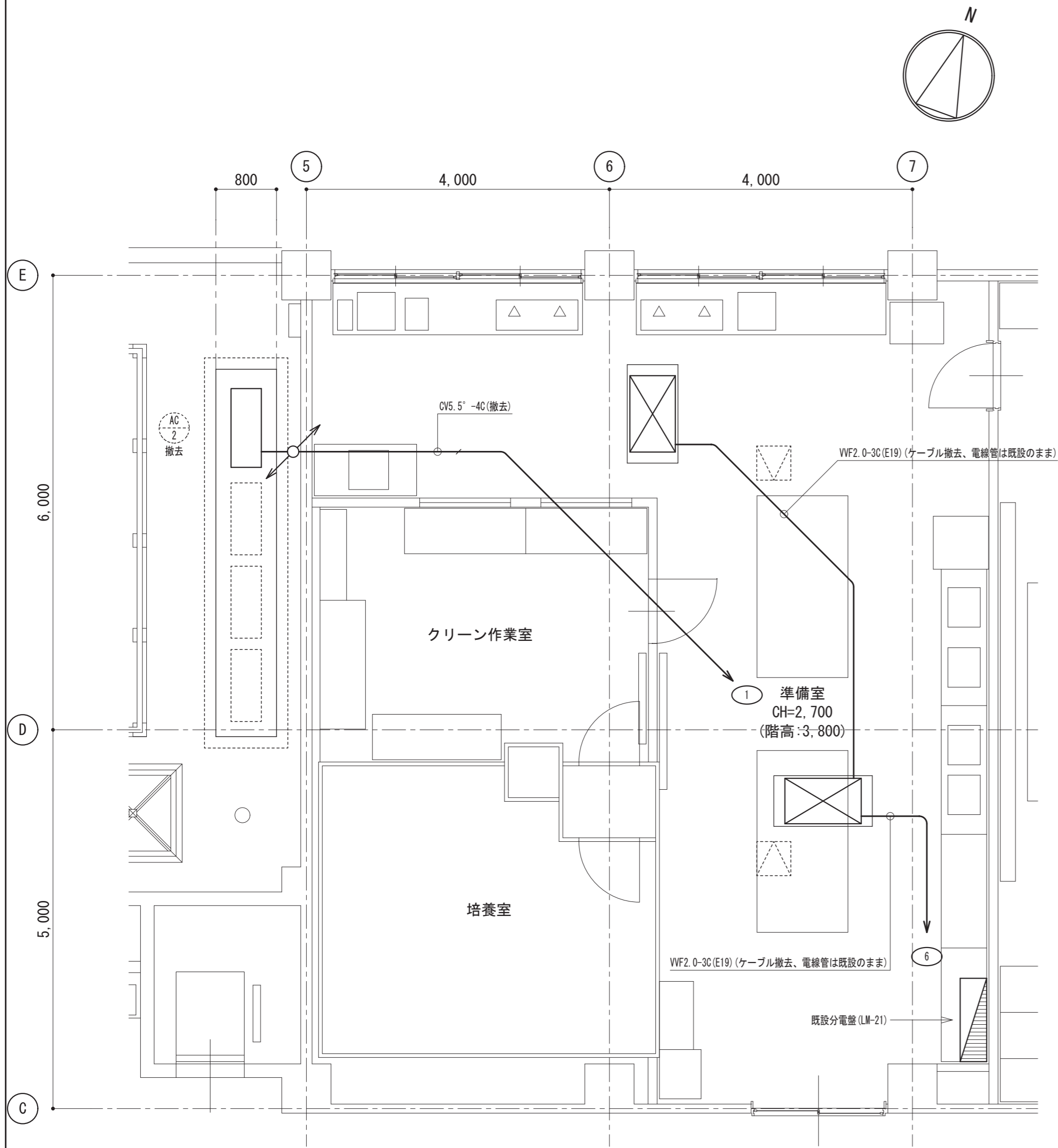
CHECK DRAW
福田 福田

県立鳥取湖陵高等学校生物工學室I準備室エアコン更新工事
冷暖房設備 配管図

SCALE No
1/50 M-04
DATE

改修前

改修後



動力設備 配線図 S=1/50

既設分電盤 (LM-21)		
①	ELCB 3P3E 50AF/30AT 3φ3W 1φ3W 100V-200V 共用	既設のまま
⑥	ELCB 3P3E 50AF/20AT 3φ3W 1φ3W 100V-200V 共用	配線撤去 (既設のまま)

動力設備 配線図 S=1/50

既設分電盤 (LM-21)		
①	ELCB 3P3E 50AF/30AT 3φ3W 1φ3W 100V-200V 共用	既設のまま
⑥	ELCB 3P3E 50AF/20AT 3φ3W 1φ3W 100V-200V 共用	予備 (既設のまま)

鳥取県
令和7年度
J2501739
東部建築住宅
事務所

有限会社 福田設備設計
〒689-1115 鳥取市紙子谷10番地4 TEL:0857-51-8240 FAX:0857-53-4669

管理建築士 福田洋之
一級建築士 第376077号
担当者 福田洋之
設備設計一級建築士 第5962号

CHECK DRAW
福田 福田

県立鳥取湖陵高等学校生物工芸学Ⅰ準備室エアコン更新工事
動力設備 配線図

SCALE No
1/50 M-05
DATE